



10/5 中3生の学力Bテスト対策



10/18 第2回漢字検定

親子で受験、お母さんは3級



10/26 (土) 朝から中2、3年生の第1回回数特講  
この日は朝から高校生も



漢検の練習、パソコンや模擬テストで



解答を見て漢検の自己採点。結果が返ってくるのは11月初めです。(左2枚)下は普段の様子で衣桜ちゃんウサギの帽子、成瀬さんは髪をパッサリ!



5期生の田積さんと6期生の野澤君。この時代の生徒は生き生きしてたなあ!共に子供が塾生。早いねえ!



いつも差し入れありがとうございます!

運動部活動のあり方に関する

総合的なガイドライン

平成30年3月 スポーツ庁 (抜粋)

前文  
○ 学校の運動部活動は、スポーツに興味・関心のある同好の生徒が参加し、各運動部の責任者(以下「運動部顧問」という。)の指導の下、**学校教育の環境として行われ、我が国のスポーツ振興を大きく支えてきた。**  
○ また、体力や技能の向上を図る目的以外にも、**異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築を図ったり、学習意欲の**

**向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資するなど、生徒の多様な学びの場として、教育的意義が大きい。**

2 合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取組

(1) 適切な指導の実施  
運動部顧問は、スポーツ医・科学の見地からは、トレーニング効果を得るために休養を適切に取る必要があること、また、**過度の練習がスポーツ障害・外傷のリスクを高め、必ずしも体力・運動能力の向上につながらないこと等を正しく理解するとともに、生徒の体力の向上や、生涯を通じてスポーツに親しむ基礎を培うことができるよう、生徒とコ**

3 適切な休養日等の設定

運動部活動における休養日及び活動時間については、**成長期にある生徒が、運動、食事、休養及び睡眠のバランスのとれた生活を送ることができるよう、スポーツ医・科学の観点からのジュニア期におけるスポーツ活動時間に関する研究も踏まえ、以下を基準とする。**  
○ 学期中は、週当たり2日以上以上の休養日を設ける。  
(平日は少なくとも1日、土曜日及び日曜日(以下「週末」という。)は少なくとも1日以上を休養日とする。週末に大会参加等で活動した場合は、休養日を他の日に振り替える。)

○ 長期休業中の休養日の設定は、学期中に準じた扱いを行う。また、生徒が十分な休養を取ることができるように、**運動部活動以外にも多様な活動を行うことができるよう、ある程度長期の休養期間(オアシス)を設ける。**

○ 1日の活動時間は、長くとも平日では2時間程度、学校の休業日(学期中の週末を含む)は3時間程度とし、**できるだけ短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う。**

生徒には制服を強制し、ルールを守れ、校則を守れとしながら、部活の指導では文科省のガイドラインを無視する。平日の長時間の練習や土、日、祝日も練習試合や無意味な遠征。テスト前でもだ! いったい誰のための、何のための部活なのか、指導者が自身の評価を上げるために生徒を犠牲にしているのではないかと疑念を抱く。  
全道大会に出たい、全国に行きたいは部活動をやっていけば、そう思うのは分かる。しかし長時間の練習では、仮に全道、全国に行ったとしても通用しない。

この辺のほとんどの指導者には全道、全国で成果を上げるような指導力や能力が足りないように思う。だから長時間の練習を生徒に課すのだ。  
また、昔と比べると部活をやる生徒の意識が低いことも問題だ。何故やるのかよく考えることだ。  
全国各地で学校、教育委員会向けの研修・講演などを手がけている。学校業務改善アドバイザー、中央教育審議会「学校における働き方改革特別部会」委員、スポーツ庁、文化庁の部活動ガイドライン作成検討会議委員の妹尾昌俊氏は「部活動の顧問、指

導者は、一度、学習指導要領を読め!」と。学習指導要領を金科玉条にせよ、とは思わないが、学校教育の一環として部活動をやっている以上、依拠していかなくてはならない。部活動は、中学校、高校の指導要領には、実は1カ所しか出てこない。「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しみせ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するもの」とこう書いている。つまり、学習指導要領では、生徒の自主性を尊重すること、スポーツ・文化等に親しませることなどを重視した記述である。当たり前に「教育の論理」に立っているから、「大会等で顕著な成績をおさめることを目指す」などは書いていない。...と言っている。

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金		
				★北陽定期テスト	★江南定期テスト	休塾	★中3道コン		★景雲・鳥取西1・2年定期テスト	★共栄定期テスト	★富原定期テスト	★第2回漢字検定	休塾	★美原定期テスト	★鳥取西定期テスト	★鳥取3年定期テスト	★美原定期テスト			◆1000分特講	◆1000分特講	★学力Cテスト	★明輝定期テスト			振替休日	文化の日	◆学力Cテスト対策			
				29	29		29		22	22	22	22		22	11	11	11			休塾	休塾		11			休塾	休塾				
<p>■ 11月の予定 ■</p> <p>一目に一度はR-GROUPの確認をお願いします。</p> <p>公立高校入試までと125日 センター試験までと77日</p>																															

予想以上の速さで進化するAI時代に長時間の部活や画一的な教育、過保護に過干渉、そんな環境で育った子供たちは自主性や積極性に乏しく、AI社会で必要な価値観や感性、発想力、想像力、世界観など生まれるはずもありません。

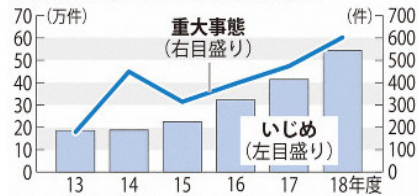
東京麹町中学校の工藤校長のような斬新な取り組みを行わなければ、これからの世界が必要とする人材など育つわけがないのです。いまは学力が高いだけでは通用しないのです。一人一人の個性を生かし、目標や夢に向かって突き進むことです。中学校、高校の6年間をどう過ごしたかが、その後の人生をほぼ決定しているように思います。

「理想」は一般的には実現しない「現実」ですが、「夢」は実現する「現実」です。子どもたち一人一人の能力をのばし、夢を実現させるのが教育であり、指導者の役割だと思います。

別紙に長年の北海道の「夢」を実現させた駒大苫小牧野球部、元監督の香田晋士史氏の日刊スポーツの特集記事を掲載しました。ぜひ読んでみて下さい。

### 昨年度いじめ 54万 3933件 重大事態 602件 とともに過去最多

いじめ防止対策推進法施行(2013年9月)後のいじめ、重大事態の認知件数の推移



全国の小中学校・高校などが2018年度に認知したいじめが前年度比12万9555件増の54万3933件で過去最多だった。文科科学省が17日に公表した問題行動・不登校調査の結果で明らかになった。文科省は「積極的認知が進んだ」とみるが、心身などに深刻な被害が出た「重大事態」も128件増の602件と過去最多で、早期発見が抑止につながっていない実態が浮き彫りになった。

調査は全国の国公立小中学校・高校、特別支援学校の3万7192校を対象に実施。いじめの認知件数は小学校42万5844件▽中学校9万7704件▽高校1万7709件▽特別支援学校2676件だった。いじめ防止対策推進法が施行された13年度から文科省がけんかやふざけあいも含めて報告を求めたこともあり認知件数は年々増加。「いじめがゼロ」と報告した学校は13年度は47.0%だったが18年度は18.2%。

生命や心身などに重大な被害が生じた疑いがあったり、長期欠席を余儀なくされたりする重大事態は過去最多の602件。文科省は「積極的認知の裏で早期対応すべきケースが見逃されないように学校に求めたい」と話している。自殺した児童生徒は前年度比82人増の332人で「状況不明」が194人と最多で、いじめの問題を抱えていたのは9人。認知件数が過去最多を更新したことについて、いじめの問題に詳しい明治大の内藤朝雄准教授(社会学)は「いじめを認めることを嫌がる教員が多い中、厳しくなった社会の目を意識して一時的に感度が高まった結果と考えられる。重大事案も実態はもっと多いのではないかとみている。

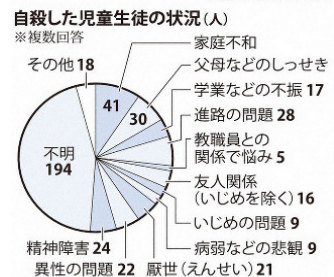
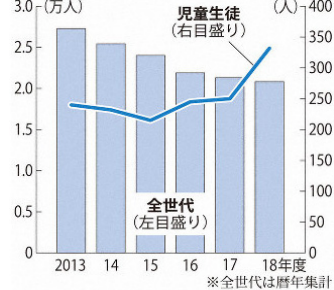
【水戸健一】毎日新聞2019.10.17

### 児童生徒の自殺 3年連続増加 背景に「生きづらさ」

#### 学校の取り組みは？

文科科学省が17日に公表した2018年度の問題行動・不登校調査で、自殺した小中学生・高校生は332人に上り、3年連続で増えた。国内の自殺者数が9年連続で減少する中、子どもの自殺はむしろ増加傾向にある。なぜ歯止めがかからないのか。

児童生徒と全世代の自殺者数の推移



広がる管理強化「苦しいと感じている子のSOS」 「自殺も不登校も学校に通うことが苦しいと感じている子どもたちのSOSです」。「不登校新聞」編集長で自身も不登校だった石井志昂(しこう)さん(37)はこう訴える。

今回の調査によると、自殺は小学生5人▽中学生100人▽高校生227人。中でも高校生は前年度より67人増えた。不登校も小中学生16万4528人(前年度14万4031人)、高校生5万2723人(同4万9643人)とここ数年増加傾向にある。

背景の一つには学校に広がる「管理強化」による閉塞(へいそく)感が指摘されている。石井さんは最近、いじめで不登校になった中学3年生の女子生徒から「『目に見えない圧力』が学校に広がっている」と打ち明けられ、フリースクールの職員からも「学校が監視的になっている」と聞いた。

「忘れ物をしない」「背筋を伸ばす」といった規範意識の向上をクラス全体で目指す「学級スタンダード」、給食時に私語を禁止する「黙食」、学力に対する保護者の目……。石井さんは「フリースクールやホームエデュケーション(家庭での学習)などさまざまな選択肢が当たり前になくさんあり、それらを選びやすい教育制度を確立する必要がある」と指摘する。

しかし、自殺の背景を把握するのは難しい。今回の調査では、学校が保護者から聞いた自殺の状況も公表しているが、「不明」が194人と最も多い(複数回答)。文科省担当者は「『昨日まで元気だったのに』というケースもある。社会全体で要因をしっかりと把握し、分析する枠組みが必要だがそこまでいっていない」と話す。

北海道大病院の齊藤卓弥特任教授(児童思春期精神医学)によると、思春期以降はホルモンのバランスの変化で衝動性が高まりやすい。衝動的な行動を制御する機能を担う脳の前頭葉の発達が十分でなく、生きること否定的になるなど「自殺関連行動」の危険性が高いという。齊藤氏は「自殺の背景は複合的。自殺予防を考えるためには、自傷や『死にたい』と口にするなど特定の事象に注目するのではなく、学校や家庭などでのネガティブな体験をどう社会全体で減らしていけるかを考えるべきだ」と指摘する。【千脇康平、成田有佳】毎日新聞2019.10.17

### 「子どもを産みません」18歳、宣言は自然を守るため



カナダに住む18歳の少女が先月、熟慮の末にある宣言をした。「私は子どもを産みません」。カナダ政府が、気候危機への対策を取っていないことが理由だ。インターネットにホームページも立ち上げ、賛同の輪が広がっている。

宣言したのはエマ・リムさん(18)。カナダ東部モントリオールの名門マギル大学で生物医学を学ぶ。リムさんは9月16日、政府が環境危機対策にしっかり取り組み、安全な未来を約束するまで、子どもをつくらないう呼びかけるキャンペーン「#NoFutureNoChildren(未来がなければ子どももいない)」を立ち上げた。開始1カ月で、若者を中心に5千人以上が賛同した。

リムさんが環境保護に目覚めたきっかけは、スウェーデンの環境活動家のグレッタ・トゥンベリさん(16)の活動を知ったことだ。

高校3年生だった昨年11月、グレッタさんに触発され、毎週金曜日に授業を休んで政治家たちに気候危機対策に取り組むよう訴える「学校ストライキ」を始めた。「決して諦めない姿勢、そしてたった1人で世界を変えられることを、グレッタさんに学んだ」

カナダのトルドー政権は今年から温暖化ガスの排出規制を打ち出していない州に対し、「連邦炭素税」を課している。一方で、今年6月には石油パイプラインの拡張計画を承認した。温室効果ガスの排出量が増えるおそれがあり、環境保護団体から批判が相次いだ。リムさんは「トルドー政権は私たちの声にちゃんと応えてくれていると思っていたので、裏切られた思いだ」と不信感が募った。

世界の平均気温が産業革命前に比べて1.5度上昇する可能性があるというと推測される2030年、リムさんは29歳になる。「ちょうど子どもを産む時期。でも、きれいな空気やきれいな水が保障されず、安全と言えない世界では、私は子どもは産めない」

子どもを産まないというリムさんの決断に両親は悲しんでいる。だが、リムさんは妥協したくないという。学校ストを始めてからも、勉強に一生懸命取り組み、マギル大学に合格した。環境保護の重要性に気づいてからは、飛行機に乗らない、肉は食べない、不要な服は買わない、という生活スタイルを守っている。

実は子どもは大好きだ。「できれば男の子と女の子が1人ずつほしい」と願い、将来は子どもと「自然豊かなカナダで夏は海で泳ぎ、秋は紅葉を楽しみ、冬はそりで滑る」日々を夢見る。だが、気候危機が進めば、「そうしたことは実現できなくなる」と心配する。

カナダでは21日、下院議員を選ぶ総選挙(定数338)が投開票される。気候危機対策は争点の一つだ。リムさんはすでに期日前投票を終えた。「私たち若い世代がもっと団結して、政府にもっと気候危機対策に取り組むよう促したい」

(モントリオール=藤原学思)2019.10.21 朝日新聞DIGITAL

昨年今年も「記録的な豪雨」「過去最強クラスの台風」、日本中を大規模水害が襲った。昨年の西日本豪雨では死者・行方不明者245人、今年の台風19号では死者・行方不明者95名、そして台風15、19号による農林水産被害は1800億円近い。

もう日本は「豪雨多発、自然災害多発」国だ。自然環境破壊による気候変動、いつ災害が我が身に降りかかるか分からない。他人事ではないのだ。いまの自分、自分たちの子どものことを考えたら環境問題に無関心ではいられない。国も国民も!

2004年(平16)夏の甲子園で北海道勢初優勝を飾った駒大苫小牧の香田誉士史さん(46=現西部ガス監督)。雪国の常識を覆す練習法で同校を史上6校目の夏2連覇へ導いた。「徹底力」と「反骨心」でハンディを乗り越えた開拓者の挑戦

「外に出る。白いか黒いかの違いだ」



05年1月、雪が残り、ピカピカに凍ったグラウンドで練習する駒大苫小牧の選手

「外に出る。グラウンドが黒いか白いかの違いだ」。香田がそう言った時、何人もの選手が耳を疑ったに違いない。04年の全国制覇で一気に知名度を上げた駒大苫小牧の冬の1日。外野ノックから始まり年々エスカレートしていった雪上練習は、いつしか紅白戦にまで発展した。一面真っ白の雪に覆われたマウンドには、後の沢村賞右腕で、現ヤンキースの田中将大も立ったことがある。

香田 将大には「甲子園だと思って投げろ」って言ったよ。ケガをする。肘を壊す。風邪をひく。そういう声はいっぱい耳にしたけど、言われれば言われるほど「うるせーよ」と。選手が、どんどん進化する。春が来なくてもいいなって思うほど楽しかった。

95年に、九州生まれの香田が駒大苫小牧に赴任してから長年「壁」となっていた冬は、10年近くたった頃、力を蓄える絶好の季節へと変貌していた。

北海道の冬は厳しい。1年のうち約5カ月もの間、グラウンドは雪に閉ざされる。太平洋に面し雪が比較的少ない苫小牧市も、例外ではない。その間、室内練習場や体育館で基礎練習を行うのが、この地方の常識だった。せっかく技術が上達しても、雪解けの頃には後退している。悩める香田を救ったのが、社会人野球の大昭和製紙北海道(94年にクラブチーム化の後、解散)で選手、監督として活躍した我喜屋優(67=現興南監督)だった。

我喜屋 北海道は冬は室内っていうのがある。「それじゃあ冬眠する熊さんと一緒だね」って言ったんだ。発想の転換。室内でも練習はできるけど、個人の動きしかできない。ならば、外でやればいい。

沖縄出身の我喜屋と佐賀育ちの香田は「外様同士」で馬があった。「目からウロコ。北海道人になりかけていた時にブスッと刺された感じ」という香田は、さっそく雪をどけ、選手を屋外に集めた。

香田の赴任4年目となる98年から在籍した磯貝剛(35=現室蘭シャークス監督)が苦笑いする。

磯貝 最初に聞いた時は「マジで!？」と思った。寒さは全然、感じない。恐怖心しかなかった。イレギュラーが多くてキツイけど、意外とやれちゃう。練習をボイコットされたこともあった。スライディングでは二塁で止まれず、左翼前まで滑って行く選手がたくさんいた。それでも、春になって実戦を行うと、サインに対する反応は格段に良くなった。ヒントを与えた我喜屋が言う。

我喜屋 僕は香田の反骨精神を利用しただけ。寒い中で頭を使っていると、心も強くなる。雪解けとともに、精神力はもっと強くなっている。



西部ガスの新球場でコーチと話し合う香田誉士史監督(右)

04年夏からの3年間は、北海道民にとって「奇跡の夏」だった。全国高校野球選手権で深紅の大優勝旗が白河関どころか、一気に津軽海峡を越えた夏。翌年の2連覇。3年連続で決勝に進み最後は準優勝に終わったが、駒大苫小牧の活躍は北海道の短い夏を熱狂に包み「幻の3連覇」と呼ぶ人まで現れた。

小中高と一緒に幼なじみの森田剛史(46=現佐賀商監督)は、香田のことを経営学者ドラッカーの言葉を借りて「チェンジリーダー」と表した。常識を覆すことを恐れず、変化を生む。初優勝時33歳の九州から北海道にやってきた青年監督の情熱と反骨心は、宿敵だった雪さえも溶かしエネルギーに変えた。

警察に2度補導…父が死んで荒れた



89年夏の甲子園2回戦、神戸弘陵戦で右翼ヘソロ本塁打を放つ佐賀商・香田

雪上練習で雪国のハンディを乗り越えた反骨心は、父の影響が大きい。香田は1971年、佐賀市で次男として生まれた。父明宏について「1本筋が通っていて曲がったことが大嫌いな人だった」。5歳上の兄博文の影響で小2で野球を始めてからは、父が道具を手作りし、毎日のように庭先で練習を手伝って

くれた。

小学生の頃、親戚一同が集まった正月の宴席での出来事だった。酔っぱらった親戚の1人が、当時、佐賀商野球部の兄に「高校入っても、補欠なら意味ないやろ」と絡み出した。「レギュラーかどうかなんて関係ねえや! 3年間、務め上げるのが大事なんだ」。取っ組み合いのケンカが始まりそうなほど激怒した父の姿が、忘れられない。

89年夏の甲子園2回戦、神戸弘陵戦で右翼ヘソロ本塁打を放つ佐賀商・香田 香田 誠実な人だった。おやじの考え方は、今も自分の根っこに染み付いている。試合に出なくても何とかしようという子たち、一流じゃなくても頑張る子ほど気になって仕方がない。それは、おやじから俺へのプレゼントだった。

電設工場の仕事をしていた父は、台風が来れば家々の屋根に上がってアンテナを直すなど、地域の人たちから頼られた。「おやじは俺のヒーローだった」。その父が49歳で他界したのは中学2年の時。食道がんだった。

香田 高校が佐賀工出身だったからラグビーが好きで。本当は俺にも佐賀工でラグビーをやって、花園を目指して欲しかったんだと思う。死ぬ間際に「お前は運動神経がいいけん、ラグビーせんか」って。それが、最後の言葉だった。

父を失った寂しさはなかなか埋まらず、私生活は荒れに荒れた。額の生え際に見事なM字を描くそり込みは、当時の名残だ。他校の生徒とケンカになって警察に2度、補導され、佐賀商の推薦入試にも落ちてしまった。でも、絶望はしなかった。「推薦がダメなら一般入試で入れればいい」。反骨心に、火が付いた。

小中高と同じチームでプレーした幼なじみで、現佐賀商監督の森田剛史(46)が、懐かしそうに振り返る。

森田 小学校の時は僕ら2人が主役で3,4番。中学の時は練習をサボっていたけど、高校に入ってからは見違えるくらい真面目に練習してた。彼の良いところは「徹底」なんですよ。

「推薦組には絶対に負けない」と決めた香田は、居残りの練習量で他を圧倒し、授業中も机の下でダンベルを手に肉体を鍛えた。高3の夏、甲子園で描いたアーチは努力の結晶だった。

プロを目指していたから、大学は東都リーグの強豪、駒大を選んだ。亜大へ進んだ森田は、リーグ戦で何度も対戦することになる。

森田 香田はバリバリのレギュラーではなかったけどムードメーカーだった。高校野球みたいに全力疾走。神宮ガイドブックに「駒大の香田君はベンチからレフトのポジションまで10秒で行く」って書かれてましたもん。神宮でそんな選手いないから目立っていた。

当時の東都はドラフト上位でプロ入りした選手がひしめいていた。「周りのレベルの高さを見たら全然違うじゃんって」。選手としての限界を悟った時、自然と選んだのが指導者の道だった。

カップルが手をつなぎマウンドを歩く

指導者への思いに拍車をかけたのが、94年夏の得難い成功体験だった。

駒大4年時の夏休みを前に、香田は母校、佐賀商(佐賀)の臨時コーチとして甲子園に付き添った。大正時代創部という歴史の中で、OBたちから「甲子園出場では史上最弱」と言われたチームがあれよあれよと勝ち進み、県勢初優勝。最後は決勝史上初の満塁本塁打まで飛び出した。

香田 びっくりした。勝つたびに選手たちは「俺たちは強い」って、すてきな勘違いをしていった。あのチームで全国制覇できるんだから、北海道のチームでできないってことはないんだよ。

後に駒大苫小牧の監督になった時、この体験がどれほど励みになったことか。この時、香田の指導者としての適性を見抜いていた人物がいた。東都リーグが誇る名将で、05年まで駒大監督を務めた太田誠(81)だ。

太田 香田はいいリーダーなんだと思った。選手時代もベンチで元気良く声を出していた。先天的に前向き。腐ることがない。練習中も、先頭に立って走っていた姿が目につかぶよ。

駒大苫小牧から太田のもとへ野球部監督の相談があった時「直感的に香田がいいと思った」と、真っ先に頭に浮かんだ。

香田 母校で指導者になりたかったから、商業科の教員免許を取るため大学に残っていた。なのに、おやじ(太田監督)が「次男なら、どこへ行ってもいいな」って。「あれ? 俺、2年間大学残るって監督に言わなかったっけ?」と思ったけど、逆らうなんてできないでしょ。

大学の総務部で振る舞われたカツ丼を「なんか丸め込まれちゃったな」と思いながらも、おいしく食べた。進路が、決まった。

北海道内ですら、高校野球で駒大といえば「ヒグマ打線」でセンバツ4強入りした駒大岩見沢が有名だった時代。社会科教員の資格はあったが、苫小牧と聞いてもピンとはこなかった。初めて駒大苫小牧を訪れたのは、95年の初冬。駒大苫小牧野球部は秋の室蘭地区予選で早々と敗れて以降、監督が不在だった。

香田 グラウンドに行ったら選手がランニングしていた。ユニホームは着ていないし、長髪もいる。「髪、長いだね」って聞いたら「オフは伸ばします」って返事に愛想がない。

キャッチボールをさせても、塁間の半分の距離ですら悪送球やワンバウンドになった。専用グラウンドはあったが、どれだけ整備しても、一般生徒が当然のようにそこを突っ切って登下校した。

香田 正直「えーっ」て。自分がやってきた野球とはズレがありすぎた。一般生徒にもなめられてた。自転車でグラウンドに入るなんて、とんでもないよ。注意したら「こっちの方が近いべや」だって。放課後には、カップルが手をつないでマウンドの上を平気で歩いて行くんだから。こんな風に思われて、情けないチームだなんて。

佐賀の名門校で甲子園に出場し、大学球界の最高峰でプレーしてきた身にとっては、異次元の世界。ゼロからのスタートだった。暗くて地味で情けなかった

95年の赴任当初、全国屈指の強豪だったアイスホッケー部やサッカー部が肩で風を切る横で、室蘭地区予選すら突破できない駒大苫小牧野球部は目立たなく、香田の言葉を借りれば「暗くて、地味で、情けなかった」。そんな情けないチームを形にするには、どうしたらいいのか。技術がないなら、せめて**恥ずかしくない態度を身に付けさせたい**、と考えた。

自転車で球場まで移動する時に2人乗りはしない。カバンや靴はきれいに並べて置く。返事、あいさつはきちんとする。「野球はすぐにうまくなれないけど、そういう部分は変われるだろ」。駒大苫小牧といえば、大きな声でのあいさつ、道具を扱う際の気配りなど、今や道内一と言っていい。むしろ徹底されすぎていて怖いくらいだが、土台はこの頃に作られた。

24歳の熱血監督と甲子園など夢にも思わなかった高校球児の距離は、簡単には縮まらなかった。それでも、当時の話になると、香田の表情はパッと輝く。

香田 あの頃が一番面白かったな。あいつらのおかげで勉強になったし、あのスタートがあったから、その後もあった。

赴任して2年目の96年夏、さっそく結果が表れた。室蘭地区で春の北海道大会を制した苫小牧工を撃破し、13年ぶりに南北海道大会へ駒を進めたのだ。南北海道大会では初戦突破も、準々決勝で北海に2-3で敗退。紙一重の勝負だった。勝った北海は、甲子園出場を決めた。

香田 悔しくて、球場を出る時に泣いていた。あの時、甲子園との距離が見えた気がした。泣きながらも明確な自信が湧いてきた。

97年以降、駒大苫小牧は室蘭地区を勝ち上がり南北海道大会の常連となっていく。道具を一切使わない駒苦名物の想定練習や人さし指を掲げるNO・1ポーズ、そして雪上ノック。あふれ出るアイデアが全国制覇への道を加速させた。

当時、北海道でしのぎを削った指導者たちが香田を語る時、必ずと言っていいほど口にするのが「徹底力」や「反骨心」という言葉だった。同じ71年生まれで古豪・北海の監督として16年夏の甲子園で準優勝した平川敦(46)は言う。

平川 駒苦といえば、やっぱり機動力。野球自体が違った。リードの出方、走るタイミング、ベース前の加速の仕方、ランナーの意欲も常に全力。熱くて、激しくて、泥臭い。

フライでも、走者は次の塁にスライディングをしてからベンチへ戻った。守備のミス想定しているからだ。「あんな無駄なことをさせて、どうするんだ」。あざける人もいたが「常にやっているから、とっさにできる」と平川は思っていた。一瞬でも、諦めない。夏の甲子園で常勝を誇った04~06年の3大会は、14勝のうち逆転勝ちが8試合。5点差、6点差もはね返した。もちろん、運はあった。驚くような投手起用がはまり、監督のサインミスを選手が救った。勝機では吹奏楽部員が奏でるチャンステーマに乗って、一気に相手のみ込む猛攻撃。その戦いぶりは、香田がチームへ注ぎ込んだ信念を如実に表し、勝利の女神を魅了した。

#### 駒苦以外のイメージ沸かないでしょ

その日の天気予報は雨だった。香田は駒大苫小牧の監督として01年夏、03年



春と甲子園出場を果たしたが、いずれも1点差で初戦敗退。迎えた03年夏のことだった。初戦の倉敷工(岡山)戦は序盤から打線がつながり大量8点をリードも、試合前のノックから降り出していた雨が次第に強まり4回途中で降雨ノーゲームに。翌日、仕切り直しの一戦で敗れた。

香田 勝ちが欲しくて欲しくて…。選手ではなく、俺自身が気持ちを切り替えることができなかった。俺は甲子園で勝てない監督なのか、勝負師にはなれないのかという劣等感に押しつぶされそうだった。

降雨ノーゲームで甲子園初勝利が流れてから1年後、04年夏の初戦を控えた甲子園の室内練習場は、妙な熱気に包まれていた。現駒大苫小牧監督で、当時主将だった佐々木孝介(3年)の手には、前年悔し涙を流した卒業生からの手紙があった。「甲子園での悔しさは、甲子園でしか晴らせない」。ミーティングの様子を練習場の隅で聞いていた香田は、選手よりも号泣していた。

佐々木 僕らは「香田信者」でした。監督の不器用で繊細な部分が、選手に伝わってくるんです。勝った日の夜は必ず宿舎のホールでニコニコして「熱闘甲子園」を見ていましたね。

泣いたり、笑ったり。威厳のある監督ではなかったかもしれない。それでも、香田が口にする**「全国制覇」は、いつも本気だった**。04年夏、初戦の佐世保実(長崎)戦でようやく甲子園勝利監督となった香田は、一気に頂点に上り詰めた。**大会史上最高打率で初優勝したメンバーは全員、北海道出身者だった**。

初優勝から3年後、香田は監督を辞し、翌08年に駒大苫小牧を去った。「指導者として情けなかった」との思いをかみしめて。05年には57年ぶりの夏の甲子園2連覇を果たしたが、部内で相次ぐ不祥事にチームは何度も空中分解しかけた。06年、それでも夏に3年連続で甲子園の決勝へ進んだ。**南北海道大会まで主将を務めた田中将大(現ヤンキース)がエースだった**。決勝で演じた斎藤佑樹(現日本ハム)擁する早実(西東京)との2日間にわたる熱戦は、球史に残る名勝負として語り継がれている。

香田 もめ事が多くて、選手には寂しい思いをいっぱいさせてしまった。将大の存在が大きかった。あいつの精神力は無条件に強い。それを見せつけられた。

**「ほんの遊び心で」入学時には捕手だった田中を公式戦に登板させた頃が、懐かしく思えた**。最後の夏は胃腸炎に苦しみながらも絶対エースとして君臨した右腕に、感服した。

高校球界と決別し、時は流れて昨年11月、福岡に拠点を置く社会人野球の西部ガスで監督に就任した。実に10年ぶりの「監督」復帰だった。

香田 高校野球という舞台上、俺が別の高校の監督をしているイメージは湧かないでしょ。踏み出せない。怖さもある。それに、経験したことのないステージで試したかった。

新たな道を歩み始めたが、甲子園の思い出が色あせたわけではない。再び、時を準優勝した06年夏に戻そう。閉会式後のことだった。早実・和泉実監督(56)の胴上げを見届けた選手たちが「監督、胴上げ、お願いします」と集まってきた。ひっそりと甲子園で行われた、もう1つの胴上げ。香田の体が、宙を舞った。香田 あいつらとはわかり合えなかったと思っていたけど、体が浮いた瞬間、全てが吹っ飛んだ気がして、涙ポロポロだった。優勝した時より、涙が止まらなかった。「薄っぺらい」と感じていた教え子たちとの絆は、しっかりとつながっていた。「奇跡の夏」が、終わった。

2019年2月23日 日刊スポーツ



05年夏2連覇を達成した駒大苫小牧ナインは田中(中央)を中心に大喜び。手前は松橋

07年の甲子園出場の寄付に対する礼状です

第89回全国高校野球選手権大会 2007/8/6~22

温かいご声援ならびにご支援誠にありがとうございました。

2006年、決勝で対戦した田中投手と斎藤投手